

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.113

陽春号

2022年4月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園**「ゆかり会」情報誌

特集① 横浜エデンの園

[座談会]見守りシステムと介護の現場

特集② 園長対談 横浜×浦安

エデンの園について



ライフリズムナビのしくみ



いるときにも様々なセンサーでわかるようになってるのが特徴です。

木戸岡…ベッドのセンサーだけだと、ベッドから離れた先は、居室内にいるのか外にいるのか、活動状況がわからなくなってしまう。人感センサーがあれば、居室でどんな動きをされているのかがわかるようになります。



園長…全くそのとおりです。私は現在、園長という立場ですが、もともと介護福祉士で、ご入居者のケアをしていました。生活全体を

岡田…そうですね。ベッドセンサーだけでは、夜間しか意味がなく、1日の動きを把握できません。ライフリズムナビなら、1日を通してデータとして見ることができ、日中の支援にも色々生かせるのではないかと思います。例えば、巡視は2時間毎、状態により1時間毎だったりします。それだと断片的、点で見られない部分があると思うんです。それがセンサーによってある程度、線で見られるように感じます。

岡田…職員の中には、どうしても安全性を守りたいという観点からカメラを要望する声もあります。一方で、カメラまで入れるとその人を監視しているんじゃないかと考える職員もいます。プライバシーや尊厳を考えると、

松本…システムには居室内のカメラ設置のオプションもあります。設置について現場のニーズもありましたが、プライバシー保護の観点から、カメラ無しのセンサーだけでデータを管理する方針にしました。

見てケアをしなければならぬのですが、全体を見るとこれは簡単ではありません。やはり一人の目は、点で見られないので、それをみんなで繋げ、線や面にする作業をしています。難しさがあります。やはりシステムを使いながら生活全体を見るというのは大切だと思っています。



[横浜エデンの園 座談会] 見守りシステムと介護の現場

【特集】
第1弾

主観から客観。点から線へ。
より質の高い、安心・安全な介護を。

<p>社会福祉法人聖隷福祉事業団 横浜エデンの園 園長</p> <p>小くぼ 小久保ゆき</p> <p>入職25年目。介護福祉士として高齢者施設や障がい者施設で経験を重ね、2021年4月より、横浜エデンの園の園長に就任。</p>	<p>社会福祉法人聖隷福祉事業団 横浜エデンの園 ケアサービス課</p> <p>おかだ こうすけ 岡田 宏介</p> <p>入職11年目。介護福祉士として、見守りシステムの導入および運営を円滑に進める役割を担う現場担当者。</p>	<p>社会福祉法人聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 運営管理課 課長補佐</p> <p>まつもと ともみ 松本 朋巳</p> <p>エデンの園の運営主体である事業本部にて、見守りシステムの導入、運用の全体を管理する責任者。</p>	<p>エコナビスタ株式会社 営業部 部長</p> <p>すぎさき まさしげ 杉崎 将成</p> <p>全国の施設への見守りシステム「ライフリズムナビ+Dr.」の導入支援を行う。エデンの園の営業担当。</p>	<p>エコナビスタ株式会社 経営企画室 室長</p> <p>きど おかだいすけ 木戸岡大輔</p> <p>エデンの園の「ライフリズムナビ+Dr.」導入後、システム開発と連携しながら、主に運用面をサポート。</p>
--	---	---	---	--

2021年春、横浜、浦安、藤沢、宝塚、松山の5カ所のエデンの園の一部の介護居室で導入した見守りシステム「ライフリズムナビ+Dr.」(以下ライフリズムナビ)。

導入から2年目を迎える今春、横浜エデンの園、浦安エデンの園の全介護居室に備わることが決まった。

導入の経緯やシステムの利点、実際に利用した現場の声など、システム運用に関わってきた5人の話から見えてきたものは、介護の質向上に対する、ひたむきな姿勢だった。

システムを利用して、入居者の生活全体を把握

松本…介護ロボットやAIを活用した、新しい働き方を創造するという聖隷福祉事業団高齢者公益事業部の事業計画に基づき、施設のニーズに応じた介護ロボットの導入を検討し始めたのが2019年でした。具体的に動いたのが2020年度。当時各自治体で介護ロボットの補助金が出たのも大きかったですね。

杉崎…日本全国には介護施設が2万施設ほどあり、約25万床のベッドがあるなかで、私共の見守りシステムを導入している施設は、まだ全体の1割も満たしません。聖隷福祉事業団は、全国でも先進的な施設運営をしていると思います。

松本…先行導入施設を横浜と浦安の2施設

に決め、まず、介護現場の課題についてアンケートを実施しました。その回答のなかで、介護記録の入力に時間がかかる、夜間の巡視で入居者の睡眠を妨げてしまう、移動や移乗の介助は身体負担が大きいななど課題が浮き彫りになりました。課題を根本的に改善するのは何かと検討した結果、「見守りシステム」の導入が決まりました。見守りシステムは、様々な会社から商品が出ています。介護部門の職場長と本部職員で福祉機器の展示会へ行き、色々な機種を見て回り、その中でライフリズムナビを選びました。ベッドまわりのみを検知する機器が多い中、居室全体をシステムでカバーできる点がメリットと感じたからです。

杉崎…はい。ライフリズムナビは、センサーを複数設置できます。ベッドセンサーはベッドに、天井やトイレの人感センサー、扉の開け締め、温度湿度のセンサー、居室内のベッド以外に



松本さんの言う通り、センサーのみの設置が良いと思います。

じっくりと時間をかけて、現場に導入

杉寄.. 導入の時期は、ちょうど新型コロナウイルスの第1波、第2波の時期と重なっていました。その中で新しいシステムを導入して、使いこなし、動かしていくという苦労があったかと思いますが。オンラインでの見守りシステム導入定例会が毎月繰り返されていたことが、スムーズな稼働に結びついたのではないのでしょうか。

岡田.. そうですね。毎月1回の定例会で5施設集まり、エコナビスタさんと松本さんで、事例発表会を開催しましたね。現場では、新しいものを取り入れる時、書類だけ渡して「見ておいてくださいね」というのでは、中々理解が進みません。昼のカンファレンスなど、職員が集まる時間に一人ひとり丁寧に教えていくことに時間を使いました。導入後の今は、転倒について事例発表を行っていますが、転ぶことに焦点を当て、ライフリズムナビのより良い活用法を検討し、発表し合っています。



エデンの園とメーカーの二人三脚 活用事例とデータの共有から開発へ

園長.. 新しいシステムを入れる時は誰かが中心となり、みんなに理解してもらってからでないかと導入ができません。このシステムでは、岡田さんがその役割を果たし、現場で使うメリットが浸透していると思います。

岡田.. はい。自分からご入居者や担当職員と対話することもあります。システムを活用した介護の考え方や、データから判断できる事象などを伝えることで、少しずつですが浸透していると思います。

杉寄.. 先ほどお話にあった合同で行う定例会ですが、岡田さんが発表される、1カ月取り組まれた課題や改善に関する事例報告は、毎回勉強になります。開発側は現場になかなか行けないので、知らないことも多いのです。岡田さん自身が

や生活上の課題がある方が対象となっていてます。今年3月には全居室に設置されるので、ご入居者にとっての将来的な安心感につながり、エデンの園が選ばれる要素になると思っています。

岡田.. そうですね。具体的な例でいうと、今まで自立していた方が夜間に尿失禁をするようになり、布団まで汚れることが増えてきたんです。その方の夜間帯の睡眠傾向と排泄を解析すると、よく寝ている時に生じることが判明しました。それから、夜間にトイレ誘導したり、おむつを勧める話になりました。システムが導入されたことで、職員の主観による判断ではなく、事象を客観的に把握することができています。

また、今までは意思疎通がとれていたご入居者が、状態が変化し不穏な行動が出てきた時に、睡眠の質に着目してデータを確認したところ、夜に眠れていないといった正確な情報をドクターに示すことができました。これまでは、現場でデータを取るということも大変な作業でしたが、システム導入後は素早くデータを抽出することができ、作業効率も上がっています。

杉寄.. ご高齢の方ですと、睡眠パターンもそれぞれ。そういうデータも蓄積しているので、活用させていただいています。これまでは、

想像だった部分がきちんとデータ化され、「こうかな?」じゃないか?」の部分が判断しやすくなり、対応スピードに繋がると思います。

システムでできることは、システムを活用人にかできないことを、より手厚く

松本.. 介護の現場では、24時間ずっと見られるわけではないので、ライフリズムナビの導入によって、24時間切れ目なく、職員とシステムがご入居者を見守れるようになったこと。これまで主観や経験則で対応していた部分から、職員が見て接したことと実際のデータを擦り合わせて、介護サービスを提供できるようになったこと。この2点が大きな成果です。ケアの質が上がり、ご入居者の生活の質の向上につながっていると思います。

岡田.. これから全居室設置に向かうことで、業務がスマート化し、職員の手がからない部分も出てくると思います。それで生じた時間を、ご入居者に還元していきたいと考えています。

木戸岡.. ケアスタッフの皆さまがやりがいを感じる部分は、ご入居者と接していただける時間だと思っています。そうした時間をより多く作れるシステムに発展するように、改善を繰り返していきます。



感じられた「どうしたらいいか?」という疑問など、改善すべきことに関して知る機会にもなります。「こんな機能があったら良い」といったご意見から得たヒントを元に、新たなシステムを開発してリリースする予定です。お客様から出た声を開発に生かすという好循環が生まれています。

松本.. このライフリズムナビの導入にあたって、現場でもかなり積極的に取り組んでもらっています。最初に横浜エデンの園がデータ分析に取り組み、残りの4施設がそこに追随する形で、今の定例会の形に行きつきました。互いに情報共有し切磋琢磨しています。初めだけは質問もなく、私が一方的に話しているだけでしたが、現在は色々な質問をもらい、エコナビスタさんにフィードバックしています。導入からまだ一年しか経過していませんが、岡田さんをはじめ、各園の職員が成長していると日々感じています。

園長.. 横浜エデンの園で、現在ライフリズムナビを導入している居室は、認知機能の低下される方、医療的なニーズが高い方が多く、看取りケアにも重点を置いています。ご家族の方からは、最期の過ごし方を尋ねられることもあります。入居されてから亡くなる最期まで、ライフリズムナビで得られたデータを用いて、園での生活の全体像が可視化できることで、ご家族の方も安心されると思います。人であればできない部分に、より手厚く介護人材を投入するために、今後もシステムの力を最大限に活用して行きたいですね。



【特集】
第2弾

園長対談
「エデンの園について」



【介護型】横浜エデンの園

【自立型】浦安エデンの園

小久保ゆき園長 × 安達美由紀園長

聖隷福祉事業団に入職し、25年目の小久保園長と23年目の安達園長。共に長い間、介護の現場で経験を積んだ後に園長となった2人が目指す「エデンの園」の姿とは？ご入居者との関わり方や、ケアのあり方について語り合った。

「我が家」になるための環境づくりと関係づくり

安達…自立期から入居する「浦安エデンの園」は、ご自身が「ここに住みたい」と選び、納得して入居されるため、自分の居場所という気持ちが強くなると思います。長く住まう場所になるので、良い意味でスタッフにわがままを言える「近い関係」を目指しています。例えば、普段家族や兄弟に甘えるように「ここが痛い」「ちよつと来て」とか、遠慮なく言える関係になれるように。聖隷の基本理念「隣人愛」にも通じる「善き隣人」の関係を築きたいと思っています。

小久保…私も、ご自身が選択することはすごく大事なことだと思っています。今回着任した介護型施設の「横浜エデンの園」は、緊急的に入居される方が多いのです。そのため、ご自身が選んで園に来る状況ではなく、ある日突然、住まいが横浜エデンの園に変わることになります。だからこそ私たちが心がけていることは、可能な限り早く

たりして。そういった機会を増やすことも、ケアの1つと考えています。

安達…できることを見極めて、最期まで続けてもらうことって大事ですね。

小久保…職員がやる方が簡単だったり、早かったりもします。例えば、歩けるけれど車いすに乗った方が速いし、ご本人も楽だから車いすで介助しがちです。でも、一緒に話しながら歩行器でゆっくり歩いたりできるのが、エデンの園の良さかなと思っています。

安達…本人の思いに寄りそう点でいうと、食事も大事ですね。嚥下も難しい状態になった方が、「イチゴが食べたい」と言えば、すり潰してから食べてもらったり、「どうしてもビールが飲みたい」と言う方にも、少しずつ口に含んでもらうなど、要望に応えられるように工夫しています。

小久保…そうですね。なんとかして実現してあげたいという姿勢は、介護職員、看護師、事務職員みんなの共通姿勢ですね。

安達…事務職員と介護職員の役割は基本的に分かれていますが、園全体でどのように対応したらより良いケアが実現するかを話し合い、立場を超えた協力体制を強化しています。また、3月には「見守りシステム」が介護居室全室に導入され

「ここが生活する場所、住まいだ」と認識し、安心してもらえるように関わることに。それが私たちのケアの出発点だと思っています。多くの方は、ご自身でできないことが増えてから園での生活になるのですが、「できない」ことを認識せずに過ごしてもらいたいと思っています。ご高齢になると「やらなくていいよ」って、できることまでやらせてもらえないことも多くなりがちです。園では、そういったことがないように関わっています。

安達…そうですね。100人いれば100通りの対応があると思うので、一人ひとりに合わせた対応が大事ですよ。自立型の施設でも、自立棟（一般居室）から介護居室へ移るときには抵抗を感じられるようで、「我が家」になるまで時間がかかります。丁寧に一緒に課題を解決していくこと、その解決する過程で、信頼関係が生まれていくのではないのでしょうか。

小久保…安心して生活してもらうことが基本ですからね。どういった状況が安心できるのか、職員なので、ケアの質を更上げるツールとして期待しています。例えば、安眠を妨げずに見守ることができ、目覚めて動きだす時も分かるため、必要なケアがスムーズに提供できます。転んだ時など、なぜ、どのように転んだかを把握できると思います。心地よいケア実現のために活用したいです。

小久保…全くその通りですね。ご入居者って、いつでも来て欲しいわけではなく、困ったときに来てほしいと思うんです。見守りシステムの客観的なデータから、様子を見に行くタイミングが見つかるのは、ご入居者の安心感アップにつながるでしょうね。

横浜エデンの園
小久保ゆき園長



浦安エデンの園
安達美由紀園長



「じわじわ」を
最期まで続けて欲しい

安達…たしかに。自立棟から介護居室に住み替えたばかりの男性のケースですが、落ち着かずに歩き回ることや怒ることも多かったんです。そこで、ご本人が大事にしていた習慣をご家族や関わってきた人たちに聞き取りすると、亡くなった妻のお仏壇に、毎朝ご飯やお茶をあげることを日課にしていたことが分かりました。そんな日常を少しでも実現していくうちに、落ち着いてきたんです。また、別の方は、質問に対する答え方が、職員によって違いがあると落ち着かなくなるということがありました。「あの人はこう言ったのに、この人はこう言った」というように、嫌な印象が残ってしまうことがあり、職員が同じ言い回しで言えるように答え方を統一しました。

小久保…今はコロナ禍で、なかなか実現していませんが、ご入居者には医師や大学教授などの経験を持つ方もいるので、スキルを生かした健康講座をお願いすることがあります。職員も講義を聞いて



生活に潤いを、生き甲斐と楽しみを

レクリエーション

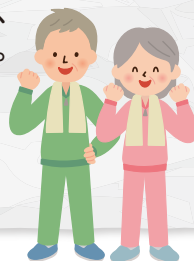
横浜エデンの園では、
様々なレクリエーションを実施しています。
ご入居者一人ひとりの好みに合わせてご参加いただけます。



「みんなでワイワイ楽しみたい」人におすすめ 集団レクリエーション・体操

ご入居者の皆さまが集まって、
一緒に楽しむレクリエーション。
集団体操もあります。

[内容] 早口言葉、
音読、体操 など



園の行事も充実

横浜エデンの園では、季節を感じる行事が
満載。ご入居者だけでなく、ご家族も一緒に
参加できる行事もあります。

[行事例]
七夕会、納涼祭、
紅葉の秋のドライブツアー、
クリスマス会、豆まき、
お花見会 など



レクリエーションの時間を利用した 制作(ものづくり)

季節ごとに、集団レクリエーションや個別レク
リエーションの時間を利用して行う「ものづく
り」。制作したものは、お部屋の玄関に飾った
り、園内で使用しています。

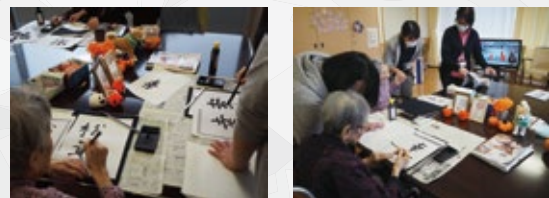
[制作物例] 季節の飾り「こいのぼり・七夕飾り・
クリスマス・おひなさま」、和紙のトレイ、筆を
使った世界に一枚の絵手紙、毛糸を使ったハン
ディモップ、指を編み棒がわりにして編む指編み
マフラー、石鹸のデコパージュ、和紙の葉書 など



「一人で好きなことに集中したい」人におすすめ 個別レクリエーション

職員1名と一緒に、ご入居者が好きなこと、
やりたいことを行う個別レクリエーション。特に
決まったスケジュールはなく、ご本人やご家族
と相談して内容や時間を決めて行います。

[内容例] 習字、脳トレーニング、文章の音読、
新聞の音読や解説、ものづくり、散歩 など



横浜

エデンの園から

お問い合わせ

詳細につきましてはフリーコールにお問い合わせください。[9:00~17:00]

平日 0800-111-1165
土曜 0120-990-278

募集対象空室情報

[2022年4月1日現在]

4室入居可能



自分でできることが増える喜びを

個別機能訓練と生活リハビリテーション

「できることまで奪わない」が横浜エデンの園の信条です。入居する前は家で寝たきりだった人が、
個別機能訓練や生活リハビリテーションを通じて、自分でできることが増えていくこともあります。
「やってみたらできちゃった」。ご入居者にとっても、職員にとっても、何より嬉しい瞬間です。

ご入居者一人ひとりに合わせた理学療法士による個別機能訓練

横浜エデンの園では、理学療法士の資格を持つ機能訓練指導員を1名配置し、ご入居者一人ひとりの
能力に合わせた訓練メニューをマンツーマンで実施しています。歩行器を使った歩行練習、屋内外で
の散歩、リカンベントエルゴメーター(自転車こぎ)を使った筋力や持久力のアップなど、ご家族の希望、
ご本人の意欲、専門職から見たリハビリの必要性を踏まえて、リハビリの内容、回数等を設定します。

生活の中で、ご入居者ができることを増やすこと、見つけていくことが私の役割



理学療法士 小川 圭



歩行訓練



リカンベントエルゴメーター

「できることまで奪わない」生活の中で行う動作をリハビリに

手伝い過ぎないことが大切です。



ケアサービス課 富安 章

生活する上で必要な動作(立つ、座る、着
替え、食事、歯磨き、入浴、トイレなど)を、
介護職員が付き添いながら実施するのが
生活リハビリテーション。

ご本人に何ができるのか、何が一人だと
難しいのかを見極めてお手伝いする。手伝い過ぎないことが大切です。入浴
を例にあげると、浴槽をまたぐことはできなくても体を洗うことはできるご入居
者には、リフト浴を使いつつ、それ以外の部分はご自身で行うように促し
ます。食事についても、認知症の方であれば、器の大きさや形、色を試行錯
誤しながらその方に合った器を探します。理学療法士と介護職員とで相談し
ながら、どうすればご自身で食べられるようになるかを常に考えます。



例

歩行練習を重ねて、自分で少しでも歩けるようになったら、食事席までの移動は、介護職員のサポートを受けて本人の力で歩くことを勧めます。

…個別機能訓練 …生活リハビリ